

## 育成を目指す資質・能力

〈本時のねらい〉学びのまとめを記録した「ことばのノート」や見直しのチェックリストを使い、自分の書いた説明文を見直す活動を通して、より正確で分かりやすい文章に書き直すことができる。

## ICT活用のポイント

推敲の基礎を身につける⇒学習支援ソフトを活用するよさ：①文章のまとまりごとにカードに分けて書き、繋げていくことができる（カードの削除や前後の入れ替えで文章構成も吟味できる）②ワープロ機能により、誤字脱字の修正や、言葉の付け足しが容易にできる。③児童同士が互いの作文を見合うことができる。

### 【めあてをつかむ】

「作り方」のまとまりをもっと分かりやすく書きなおそう

【ペアで意見を交流する】  
互いの説明文の良さを伝えたり、アドバイスしたりする

【個で考える】  
アドバイスをもとに考え、自分の説明文を書き直す

【振り返る】  
分かりやすく書けていたこと、これから気をつけたいこと

## 事例の概要

### 【事例におけるICT活用の場面①】

前時に自分で推敲して直した互いの第2稿を学習支援ソフトで読み合い、既習の分かりやすい説明文を書くコツをまとめた「ことばのノート」や推敲のチェックリストを活用して、「よいところ」「直すべきところ」の意見交流をする。（途中でペア替えを1回行い、多様な考えに触れさせる

### 【事例におけるICT活用の場面②】

ペア交流でのアドバイスを参考に、誤字脱字やことばの付け足し、文の順番の入れ替えを学習支援ソフトのワープロ機能を使って行い、自分の説明文をより分かりやすいものに書き直し、提出BOXに再提出する。



さいごに、きりこみのところ  
に、とれないように、わごむを  
つけます。かたつぽをひっかけ  
ましたら、わごむをひねります。  
もうかたつぽにも、ひっかけま  
す。これで、かえるパッチンが  
できあがりです。すきないろや  
かえるなど、かいてもいいです  
ね。

学習支援ソフトのカード1枚1枚が紙ベースの場合の短冊の役割を果たし、文章のまとまりや、順序を表す言葉を冒頭に置く段落ごとにカードに分けて書くことができる。推敲の場面では余分なまとまりの削除や前後の入れ替えが容易にでき、文章構成を考える基礎を学ぶことができた。



ワープロ機能により、誤字脱字の修正や、言葉の付け足しが容易にできる。紙ベースの活動では、書いたり消したりしているうちに分からなくなってしまうことがよくあるが、そういう混乱はなくなる。反面、キー入力できない子供たちなので手書き入力をさせたが、手書き文字をPCが判読できないと違った表記になるなど、修正に手間取る場面も見られた。小学2年生でも五十音のキー入力ができるよう、教育課程を変える必要があると考えられる。



学習支援ソフトで児童同士が互いの作文をすぐに見合うことができる。途中でペアの変更をしても、画面上ですぐ切り替えられるため、紙の配付よりも混乱がない。また、個人で考え、推敲する場面でも参考にしたい友達の文章を見ることがもできる。

説明文に必要な図や絵や写真を入れるのも自分で作ったおもちゃをカメラ機能で撮影して挿入できるので、説明文に必要な文字以外のテキストについての学習にもなる